

## - スポーツフェスティバル in 東出雲町 -

平成20年2月3日(日) 13:00~16:40

東出雲町立総合体育館、東出雲町民会館

島根県においては、2回目となる総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムを去る、平成20年2月3日(日)東出雲町立総合体育館並びに町民会館において、総合型地域スポーツクラブ育成・啓発事業の一環として、「スポーツフェスティバル in 東出雲町」を開催した。

このフェスティバルには、総合型地域スポーツクラブ設立の気運を高めてくれるであろう町内スポーツ少年団に所属する団員・指導者及び保護者171名が参加し、スポーツ教室、レクリエーションゲーム等のミニ運動会(交流会)と講演会の三部構成で実施した。

はじめは、「ランニングクリニック~走って楽しい~」をテーマに元オリンピックマラソン日本代表の宮原美佐子氏によるスポーツ教室を行った。

内容としては、ランニング(ジョギング)のフォームを中心に指導をしていただいた。特に当日は、寒冷前線の影響か体育館の中は氷点下までとはいかないまでも、とても寒く子どもから大人まで口が貝のように重く、宮原氏が大きい声で「こんにちは」とあいさつをしても返すあいさつが小さく、「お腹から声をだすことによってエネルギーが沸いてくる」と何度も大きな声であいさつをする指導を受けた。

その後は、元気よく声のでるようになり、宮原氏もほっとしたようであった。

走り方のフォームについては、面白くまた丁寧に指導をいただき、特に、走るときはうずらの生卵を手で軽く握るような気持ちで、ヘソの位置から腕を引くように腕を振り、前の人のはきはぎを見ながら走ること、そして苦しい時は息を吐くようにと指導を受けた。

また、「走っている時に横腹が痛くなって困ったことのある人？」と宮原氏が聞くと、殆どの子どもが手を挙げ、「直し方教えてほしい？」と宮原氏が言うと



開始時のあいさつとは一転して大きな声で「教えてほしい～」と返事が返ってきた。そこで宮

原氏その方法として、「右腹が痛くなったら反対側へ息を「ハッ！」と吐きながら身体をひねる！」と、動作も交えて教えると、子どもたちは、その動作をまねながら、右側に「ハッ！」、左側に「ハッ！」と一生懸命身体をねじらせていた。

最後に、宮原氏から「思いつければ夢は叶う、夢を思いつけて」と激励があり、参加者全員で輪になり自分の夢を思い浮かべて大きい声で「みんな



の夢に向かってガンバッてねー！」「オーッ！」で締め括り教室は終了した。

休憩を挿んだ後、第二部のミニ運動会では、開始前に準備運動として、静岡県エアロビック連盟理事で、公認エアロビック上級指導員でもある下嶋さつき氏に、子どもたちがマナーやコ



ミュニケーションの方法を音楽やエアロビックを通じて楽しみながら自然に学べるという「マナーエアロビック」を指導いただいた。その後、団員・指導者、保護者共各チーム（団）に別れレクリエーションゲーム等で楽しく汗を流し、相互の親睦を深めた。

第三部として、団員達が体育館でゲームを行っている中、指導者・保護者の方には、場所を移動していただき「総合型地域スポーツクラブはなぜ必要か」につ

いて理解していただくため、「スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブ」と題して群馬県・新町スポーツクラブのゼネラルマネジャー小出利一氏による講演会を行った。

小出氏からは、スポーツ少年団の時期とは一人の長い生涯スポーツの中でいえば入り口（川の上流である）であり、そこで大切なことはスポーツを好きにさせることである。

スポーツ少年団の団員は小学校で卒団させるのではなく、中・高生になってもユースポラン



ティアとしてをスポーツ少年団活動に参加させると、彼らはやがて指導者として帰ってくる。（指導者の循環）

このような環境づくりに、新町SVCは総合型地域スポーツクラブとして、多くの少年団やそこで育った人たちがつくるスポーツサークルが集まって、時には年代を超えた活動や種目を越えた活動を行っている」と説明しながら総合型クラブの必要性和夢を語っていただいた。

今回、いろいろな種目の指導者・保護者の方々に小出氏の話聞いていただいたことで、総合体育館を拠点として、東出雲町スポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブ設立の可能性や将来の構想（夢の実現に向けて）について理解していただけたと感じている。

今後も県体育協会並びに広域スポーツセンターで総合型地域スポーツクラブの必要性を啓発して行きたい。

（報告：中国ブロック地方企画班員 田辺 順）

